



クリスマス会 壮年部「泥かぶら」の寸劇出演者 (12/25)

島のひかり ホームページアドレス  
<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会  
 広報委員会  
 五島市平蔵町2716  
 TEL 0959-00072  
 印刷・(株)才津印刷所

## 教会の音

主任司祭 岩崎 晋吾

皆さん、お気づきのよう  
 会の鐘塔からの音色が変わりま  
 した。現在「鐘の音」になって  
 おります。以前は、「メロディー  
 音」でした。

最初にこのメロディー音を耳  
 にしたとき、奥浦の支所かある  
 いは学校の方からの時刻音だ  
 と思っていました。よく耳を澄ま  
 すと、教会の塔からと気付き驚  
 きました。「鐘塔からメロディー  
 音？やっぱ鐘の音でしょう」と  
 思ったわけです。

お寺の鐘楼から鐘の音じゃな  
 く別の音楽が流れたら違和感  
 がありますね。それと同じ感覚  
 でした。ところが、この違和感  
 が経つにつれて慣れて参りま  
 して、「まあ、これもありなの  
 か」という気にもなっていくの  
 です。

しかし、あらためて我に帰り  
 聞き直してみますと、やはりお  
 かしい。というところで、鐘の音  
 に変えさせて頂きました。  
 教会らしい音。鐘の音も疎か

にできません。しかし、最も大  
 切な教会の音と言えは「福音」  
 です。この音を強く、そして広  
 く鳴り響かせたいものです。

五島にあって未来の教会の姿  
 を私たちは考えます。少子高齢  
 化、信徒、修道者・司祭の減少  
 が進み、共同司牧が導入されま  
 した。これからの教会を悲観的  
 に捉え、寂しさと不安を抱くの  
 かもしれない。それでも信仰  
 を守り、先人達からのかけがえ  
 のない宝を失わないようにした  
 いという意地もあります。何と  
 かして「生き残る信仰・教会」  
 ということになるのでしょうか。  
 多分守りに入ると、生き残りを  
 かけた教会になっていきます。  
 福音を響かせるとは、「信仰  
 を生きること・表明すること  
 だ」とこれからの教会が小さい規  
 模になり形を変えても、教会ら  
 しい姿で生きていく道があると  
 するならば、信仰を生きて・表  
 明するという道を選んでいくこ  
 とになるのだと思っています。  
 信仰年が続いて行きます。  
 「守る信仰」から「生きる信仰」  
 への成長の時を迎えています。



島のひかり編集長

木口 重憲

読者の皆様、明けましておめでとうございます。

初春の中、来年の事に触れるのは、はなはだ気の早い話だが、来年はいよいよ節目の二〇〇号の発刊を迎える。

高度成長の真ただ中に産声を上げた本誌。昭和の足音が少しずつ遠くなるのを感じながらも、過去の編集員が浦頭教会と一体感を持ちながら、懸命にやって来た事は、残された記念誌がしっかり証明してくれている。現在地にいる私達も、意志を受け継ぎ、未来につながる紙面作りに励みたい。

昨年、三・一一からの復興元年でもあった。政府の対応の遅れが指摘される中で、東北の人達の粘り強くながら姿が、

世界から称賛された一年でもあった。

教会では、世の流れと同様に、少子高齢化の波がカトリックの方にも大きなうねりをつくり始め、シノドスという「新しい教会のあり方を考えよう」というテーマに深い波紋を投げかけている。

神父様、シスター方が減っていく中で、支える私達の自覚もよりいっそう高めなければいけないのだろう。シノドスの話し合いを通じて、そう感じた。

目を移すと、今年は信仰年に位置づけられている。

「信仰」……久賀の牢屋の窄を案内する機会が時々ある。捕らわれた信徒の強烈な意志力が魂が揺さぶられる思いがある。時代が時代とはいえ、過酷な弾圧を乗り越え昇進して行った魂。彼等に、なぜそれ程の意志力が宿ったのか。感動と共に、ふと思う時がある。



# クリスマス

## おゆうぎ会

平和のバラ保育園

十二月十五日(土)、平和のバラ保育園のクリスマスおゆうぎ会が開催されました。例年と同じく、ご両親はもちろん、おじいちゃん、おばあちゃん、親戚の方、知り合いの方など、たくさんの方々に見守られ、盛大な拍手をもらって、園児たちは元気に笑顔で演じることができました。

温かい雰囲気になんか安心したのか、



0歳児の二人も泣くことなく、一歳児の子たちはちょっと動くだけで喜んでもらえるので、手をブンブン振り回したりと、大うけを楽しんでいるようでした。ちなみに、そんな振り付けはなかったとのことですが……。

今年の二歳児も大ノリで、三歳、四歳、五歳と同様、来てくださった方々に、とても喜ばれました。

聖劇の後に、保護者に向けて神父様からクリスマスの意味を教えていただき、園児たちは最後に、トナカイを連れたサンタさんに大きなおみやげもいただいて、大人も子どもも喜びに満たされたおゆうぎ会になりました。

# 私たちの新たな決意

あるがままに

荒木 善弘

謹んで主の御降誕と新年のお喜び申しあげます。

私にとっては四回目の年男を迎える事になります。

縁あって、二回も島のひかりに掲載させて頂く事になりました。思えば浦頭に来て約二十年。子供も手を離れ、嫁さんと二人地域の方のお世話になり過ごす日々です。ありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。

さて本題に入りますが、人生も半ばを過ぎ、みなさんはどうですか。目はどうですか？耳はどうですか？歯はどうですか？髪は大丈夫ですか？

自分もいつの間にか、そういう風になってしまいました。

これからは、あるがままの自分を受け入れ、年の数だけ一つずつ皆さんに愛され、隣人愛を

実践できる様に日々生きていたいと思えます。

神に感謝

## 新春の決意



赤尾 管子

主の平安。主の御降誕と新春のお慶びを申し上げます。この度、本誌にご挨拶させて頂く機会を頂き幸いです。昨年も日々反省ばかりで、悔やまれる事の多い日常でしたが、許しの秘跡を受けているつもりで、最近のある本との出会いについて紹介させて頂きます。

渡辺和子さんの「置かれた場所で咲きなさい」という本との出会いが改心の転機となりました。「心にゆとりがないと自分も他人もいたわれない。外見の綺麗さはお金で買えるが内面の

美しさはお金で買えない」との言葉を目にし、相手を生かすべくもりのある言葉を使える自分でありたいと、人を傷つける事がたやすく行われがちな日常を見つめ直す事のできる一説でした。

自分に何ができるだろうか。大きな希望より笑って過せる日常を。そんな希望の年であればと思い、身近な一歩から始めます。愛されることより愛することを目標とします。本年も、皆様が神様の豊かな祝福に包まれ、健康な幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

秘

跡

《帰天》

アンナ 濱口ミツエ 大泊

(十月二十二日 六六歳)

マリア 浦 ツユ子 浦頭

(十一月四日 八四歳)

## 牢屋の窄殉教祭

今年も殉教祭がやって来ました。十月二十八日、奥浦棧橋より出発。田ノ浦瀬戸の波にもまれながらの十分間の船旅。二年間、現地でのミサがなかっただけに「今日は頑張って歩けど」意気込みは凄い。道端には、秋の風物「ぐべ」が実っていた。約一時間歩いて牢屋の窄教会に到着。午後一時よりミサが始まる。ミサに先立って献花、碑文朗読、毎年の事ではあるが、牢屋の惨状を思う時、目頭が熱くなる。ミサでの説教は浦頭教会の岩崎神父様で、「牢屋の窄での迫害がクローズアップされがちだが、その殉教者が力強い信仰に生きたか、その信仰を後世に残したかに価値がある」と話された。

この日は、北海道札幌からも巡礼団が加わり、実りある殉教祭を終える事が出来た。



# 「映写会」

待降節第3主日の十二月十六日、2番ミサの後、神羊館にて映画「マリア」の映写会が行なわれました。

この映画は二〇〇六年のアメリカの作品で、キリスト誕生に至る母マリアと父ヨゼフの物語です。マリア様がひとりの女性としてどう葛藤し、母としてどう決心したかを描いていました。クライマックスの「馬小屋のシーン」は特に感動的でした。なお、このシーンはクリスマススイブのミサの開始時に、教会の祭壇の壁に映し出されました。



# 教会のかたち

富上 成美

六月にボリビアから帰国して、神父様の勧めで七月十四日、十五日と日本カトリック障害者連絡協議会名古屋大会に参加させていただきました。「信仰において障害を受けとめるとは、神の国はあなた方の間にある」と



という大会のテーマに沿って、シンポジウム・分科会・懇親会が展開され、当事者・家族・支援者の体験談や想いを伺うことができました。「障害」と言葉にすると、私は枠でくくられた感じを受けます。でもその実

際は身体的な痛み、病気になるやすさ、行動上の制限、自分への不満、周囲の人たちからの視線、差別・偏見のあらゆる形、(言葉・態度・システム...) 自らの喪失、卑下する心との闘い：日々：日々。みなさんのお話の中で、そんな声を聞いたような気がしました。そしてそれぞれが受けた痛みと苦しみの中で、神さまと出会い、神さまを近く感じておられるようでした。

中でも印象に残ったのは、大会最後のごミサです。手話による司式、点字の朗読、車椅子での奉納など、普段にない様子に新鮮さを感じたこともあるのですが、何よりも会場みんながイエス・キリストでつながっていることを感じるごミサだったので。 「神の国は人と人の間にある」という言葉の実感。 エイス・キリストを抛り所とする人たちの寄り添いの場。 教会が建物でなく、幼いころから慣れ親しんだ地域の場所でもなく、重荷を負った人たちが寄り添い、

関わり合う暖かな集いの場として迫ってきました。

普段、障害を持つ方々と関わる仕事をしていて、教えられることが沢山あります。でも今回障害と信仰という視点から教会をみつめること、教会のあり方を考えることのきっかけをいただいて、有意義な研修となりました。今後役に立てていきたいです。

# ありがとう

今回、次の方々より御芳志を頂きました。ありがとうございます。今年も編集部一同よろしくお願ひします。

- 長崎市 佐々野 美井子 様
- 三田市 梅 木 栄二郎 様
- 佐世保 松 田 トミ子 様
- 浦 頭 匿 名 様
- 市原市 山 口 ヨシノ 様
- 松山町 外 輪 力 夫 様
- 兵庫県 犬 山 勇 様
- 福岡市 梅 木 香 奈 様

# 上五島巡礼の旅 (壮年部)

壮年部は昨年の下五島教会巡礼に続き、十一月二十五日に上五島教会巡礼に行つて来ました。

当日は天候も良く、行き帰りの船内は波に揺られず、車内では季節で色づいた紅葉や上五島の綺麗な海岸線を眺めながら移動できました。日帰り巡礼の為に多くの教会を廻れませんでした。から時計回りで巡礼しました。



教会に着くと鍋内秀喜さんに

教会の説明をして頂き、聖書内の各教会に捧げられた箇所を朗読、各人での祈りを行い、最後に教会前で集合写真をパチリ。

巡礼の途中、青方教会で橋口神父様にお会いし、教会の歴史を分かり易く教えていただきました。また、上五島の人口減少に伴う信徒数の減少で、教会の維持が大変な状況であることを知り、自分の教会の将来も考えさせられました。次の丸尾教会では、川口神父様にもお会いする事ができました。

巡礼を通して、子供の頃と教会の見方が変わっている事に気づかされました。昔は建物の外観で立派な教会、地味な教会と判断していたように思います。

大人になってからは教会の造りもそうですが、自然・景色との調和や手入れされた樹木や花壇等の教会奉仕の表れ。掲示板



青方教会で橋口神父様の説明を受ける

や当番表を見ては、各教会の普段のミサ風景を勝手に想像して、頭の中のミサに参加してみたりと。今回は土足で教会内に入った機会が多く、あまり経験しなかったので新しい体験もしました。

打ち上げ会場の神羊館では、壮年会の巡礼の間にシメオン会には豪華な刺身、婦人会には身も温まる鍋を準備して頂き、感謝の内に上五島巡礼の旅を楽しめました。また、巡礼の企画、準備して頂いた役員の方々、当日ドライバーとして頑張ってくれた方にも感謝します。

## 漂着ゴミの 解消に役

〔堂崎教会〕

堂崎教会「資料館」自然の山野からの小鳥たちのさえずり、入江に満たされ海辺に映える教会堂は、訪れる人びとに一時の、心に温もりと安らぎが生まれる。そんな自然の恵みの中に、一事の漂着ゴミ問題を抱えている。教会の庭の岸辺に、何処からともなくあらゆる物が満ち潮に乗って運ばれて来ては、受付係の手を煩っている。

この現状を市（環境衛生課）に報告相談、地域の方々の陳情により、昨年十月に漂着ゴミボックスが設置され、毎週（月）一回収集作業が行なわれている。



# 第22回・奥浦混声合唱団コンサート

十二月二日、午後三時より浦頭教会に於いて、奥浦混声合唱団第22回コンサートが開催された。この日、天気予報では雨となっていたが、幸いにも天候に恵まれた。



奥浦混声は、HEIW Aの鐘、聖歌など12曲を披露した。賛助出演で奥浦小学校、奥浦中学校、奥浦慈恵院、シスター方のグループ「コールアンゼラス」それぞれに特徴を生かした歌声は、クリスマスを迎える私達の心

に響き渡る。特に奥浦慈恵院のハンドベルの演奏には、心が洗われる思いがした。

出演者全員による合同合唱「翼をください」は、観客と一体となって聖堂内に響き渡った。

賛助出演して下さった方々、又御来場して下さいました。合唱団も、これまで以上に磨きをかけ頑張りたいと思います。



## 恒例 クリスマス会!!

クリスマスのお祝いの御ミサ後に行なわれていますクリスマス会。例年どおり保育園児の遊劇(今年はエイサー踊り)を皮切りに、小学生・中学生と劇やダンス等の演目が進むなかで、修道志願者を交えて二人羽織があったり、また新垣さん夫婦による三線の音色にしばし沖縄気分を味わい。

今年には壮年会による寸劇が数年振りに行なわれました。



新垣さん夫妻



堅信組による二人羽織

近日公演あるいは好御期待など、映画の予告編のような広告に、足を向けますと……。

昔とったキネ柄、往年の小教区のスター達の名演技に、また神父様の友情出演もあり、クリスマス豪華キャストによる、壮年会の劇の復活でした。

このお祝いに出演の皆様、お疲れさまでした。笑顔で過ごせたクリスマス会、ありがとうございました。





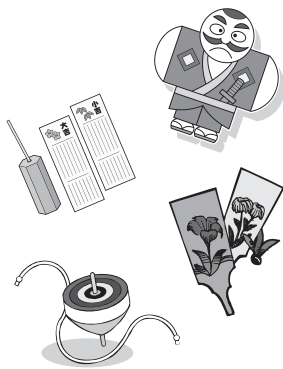
# 新年を祝う

新年、一月八日神羊館に小教区の信徒が集い、皆で新しい年を祝いました。

小教区評議会議長の竹山要司さんから新年のあいさつがあり、シメオン・アンナ友の会会長の山本哲巳さんの乾杯の発声で、会が始まりました。

例年のように、それぞれが持ち寄った料理とお酒をおいしく頂きながら、新年への抱負・期待・希望……等を語り合いました。

二〇一三年が皆さんにとって実り多い、良い年になりますように祈念したいと思います。



# おたより

今年になりましたから、五島の事がテレビで、時にありますので、なつかしく思い出します。主任神父様を始めとしまして、皆様のご活躍や、特に子供さん達のお写真等を拝見いたしました嬉しく思います。

千葉県市原市 山口ヨシノ

## 十 主の平安「島のひかり」

編集部の皆様、いつも大変なご苦労を重ねて「島のひかり」を届けてくださり、ありがとうございます。 「島のひかり」が届くたび文字通り、心にポッと「光」が灯るような気がします。これからも、よろしくお願いいたします。

長崎純心聖母会 Sr赤尾 綾

## 十 主の平和

毎回「島のひかり」をお送りいただき、心から感謝申しあげます。浦頭教会の皆様には、若

い頃、長崎におります時、たびたび訪問させて頂き「島のひかり」を拝見させて頂くたび、なつかしく、皆様のご活躍によるこびつお祈りいたしております。私は昨年、退任後は翠町教会に住みながら、週三回の透析によって生かされております。

広島名誉司教 三末 篤實

長い間、島のひかりではげまされ楽しくございました。心より感謝申し上げますと共に、どうか編集部の方々に御礼を申し上げます。

千葉県市原市 山口ヨシノ

故郷を離れて50余年になりましたが、いつになっても生まれ、育った故郷は忘れがたいものです。毎回「島のひかり」を楽しみに読ませていただいております。編集部の皆様、心から感謝申し上げます。

神戸市 愛徳カルメル会本部

修道院 Sr白濱 光恵

いつも懐かしい島のひかりを送って頂きまして、深く感謝を申し上げます。最近BSや民間テレビで五島が放映されますが、島のひかりを読みながら、懐かしい故郷を想い出します。皆様御健勝を祈ります。

兵庫県 犬山 勇

島のひかり有難うございます。これからも編集部の皆様、頑張ってください。

五島市松山町 外輪 力夫

いつも送っていただき感謝しております。この一年が、スタッフ一同の皆様の上に神様のお恵みを祈ります。

「主よ信じます。私達の信仰を強めてください。」

岡山県 濱口 直樹



# ふるさとだより

## 県大会出場権獲得

さる十一月十九日、五島市ねりんピック大会が行われ、私は浦頭Aチームとして、ペタンクの部に出場しました。



五十三チームが十六パートに分かれ予選を行い、二勝して決勝トーナメントに進む事が出来ました。ベストエイトをかけたの対戦相手は、強敵、大浜チーム、負けを覚悟して臨んだ結果は、相手チームに二点しか与えず、次も次もと勝ち、気が付けば決勝戦。"これで県大会へ行ける!"と思った途端に、三人とも集中力は途切れ準優勝、残念な結果となりました。

来年五月に行われる県大会では前回を上回る成績を残せる様

に練習に励みたいと思います。ちなみに、火・金の朝八時半より練習していますので、是非遊びにおいで下さい。

ただ「さるく」だけじゃない

沼田百合枝

平成二十四年十一月十八日、奥浦の恒例行事の一つとなりつつある『奥浦さるく』が開催された。同月四日に、奥浦地区歴史探訪協議会発足を記念して講演会が行われていたこともあり、百二十名余りが参加。泉松市先生のお話のほか中学生のクイズあり、宮原―戸岐間では環境美化活動も併せて行われた。

十二キロの「さるく」で、筋肉痛というお土産をもらった人もいたが、奥浦の歴史を学び、その良さと大切さを改めて感じる充実したイベントだった。



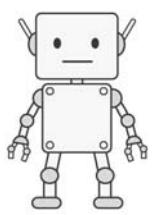
# ロボコン 全国大会出場

十二月二日、宮崎で行なわれた九州大会で、快進撃を続けた大浦優希チームが優勝。父親が作った桐の木に入れた戦友のロボと共に、夢舞台に立つ。

以下、優希さんの言葉。

「九州大会では、絶対優勝しなかったのですが、練習はしっかりしました。本番では、奥中のみんなや、長崎のチーム、県外の方々が応援してくださいました。県外の方と交流できたり、アイデアや創造性に優れたロボットが見れて参考になりました。全国大会では、まず予選突破、ベスト4、そして、優勝を目指したいと思います。」

「健闘を祈ります。」



# 編集後記

竹山 要司

島のひかりの創刊が、昭和四十七年三月、あれから四十年を迎えます。これまで沢山の方々に物心両面に渡り、支えて頂きました。私達も長く携わっているとマンネリ化していくのを禁じえません。新年を迎えメンバーを紹介します。委員長・竹山要司、編集長・木口重憲、会計・赤尾淳、部員・濱崎クニ子、木口武雄、竹山巧、江口初子、入口信、協力者・木口利光、小田洋市。宜しくお願致します。

